

戰況

60

(四)

陸軍婦人補助部隊ノ「ニユイギニア」到着、
陸軍婦人補助部隊ノ先發隊ハ既「ニユイギニア」ニ到着、
任務ニ就ケル趣ナルカ其ノ大多數ハ檢閱事務ヲ擔當シ居ル由
(五月三十日短波第四五四號 K R O J)

六日米官用電「八日ニハ最後ノ「ナンベル」飛行場ヲ占領
同島ノ裁定ヲ了セリト報シタリ」八日西南太平洋基地發「
ニュービー」

(ロ)

(1)「ニューギニア」戦域

其後上陸米軍ハ苦戦ニ陥リ六月一日桑港放送ハ更ニ之カ増
援軍ノ上陸ヲ報シタルカ漸次「モイクメル」飛行場ニ向ヒ
進撃ヲ續ケ一日ニハ之ヲ距ル二哩ノ地點ニ迫リ二日ニハ更
ニ南方ノ「オウイ」及「ウイエンデイ」兩島ニ上陸ヲ敢行
「五日短波第四七〇號AB〇」七日ニハ遂ニ「モ」飛行場
ヲ奪取ヲ報道「八日短波第四八〇號AB〇」此ノ間八日ニ
ハ同島守備隊増援ヲ企圖セル日本艦隊及米機動部隊間ニ交
戦アリ日本艦隊五隻ヲ撃沈破シ「十二日短波第四九二號
AB〇」十五「モ」飛行場ノ使用ヲ開始「十四日「ニュー
ギニア」基地發「エービー」二十日更ニ「ボロク」「ソ
リド」兩飛行場ヲ占領シ同島戰略ノ要點ヲ掌握上終了セリ
ト報シ「二十日西南太平洋基地發「ニュービー」」其後現在
ニ至ル迄掃討戦ヲ續行シ居レリ

(2)「ヌンフォール」島上陸作戦
西南太平洋「聯合軍」前線司令部ハ七月四日「クルーガ」
中將麾下第六軍カ二日「ビアク」島西方「ヌンフォール」
島西海岸ニ上陸、日本軍ノ輕微ナル抵抗ヲ排シ「カミリ」
飛行場ヲ占領セル旨發表「「ニューギニア」前線基地發「
エービー」」四日ニハ「コルナツソレン」飛行場ヲ奪取「

(一) 小笠原諸島空軍
米機動部隊所屬空軍ハ七月三日更ニ小笠原諸島母島並ニ硫
黄島ヲ空襲、後者ニ對シテハ巡洋艦及驅逐艦數隻ヲ以テ砲
撃ヲ加ヘ日本側驅逐艦三隻撃沈、乃至座礁、大型貨物船一隻
撃沈、中型油槽船一隻撃沈、驅逐艦一隻航行不能、大型貨物船數隻撃破
、飛行機七十九機ヲ撃破セル旨報シタリ(四日「ホノル
ル」號「インスターニユース」六日米官用電)
(二) 高雄爆撃
「ステイルウエル」司令部ハ七月一日B-1二四爆撃機隊カ
六月二十九日夜間、) 攻撃ヲ以テ高雄ノ港灣及船渠ヲ爆撃
諸施設ヲ破壊セル旨發表セリ(一日軍慶報「エービー」)
(三) 千島爆撃
米陸軍「リベリター」爆撃機隊ハ七月三日千島列島露處
和及計吐夷兩島ニ對シ初爆撃ヲ加ヘタリ(四日「アリュート
シヤン」基地報「エービー」)
(四) 第二次九州爆撃
七月八日「アノルド」陸軍航空隊總司令官ハ「コムミュ
ニケー」ヲ以テ「第二十爆撃隊所屬B-1二九機隊ハ七日日本
々土佐世保海軍々施設並ニ戸畑及八幡所駐在軍需産業
ニ對シ夜間爆撃ヲ加ヘ全機無事歸還セル旨發表(九日華府
「ロイター」) 佐世保ニハ悉ク「サイパン」比島間海域ニ
於テ損傷ヲ受ケタル艦隊ヲ含ム多數日本艦隊諸部隊力錠泊

修理中ナリシモノト推定ヲ下シ居レリ(七日華府發重慶向「エービ

(ハ) 太平洋戦争の経過
 七月二日軍事評論家「ユイビ」少佐ハ週間戦局論ニ於テ太平洋
 遠征作戦遂行ノ推進力トシテノ國內生産力ヲ強調シ左ノ如ク論シ
 タリ「最近太平洋ノ戦局ハ我方作戦ノ前途ニ横ハル距離及大規模陸地ノ快除
 等諸障礙克服ニ關スルハ我方作戦ノ前途ニ横ハル距離及大規模陸地ノ快除
 代ニ於テ演スヘキ多角の任務ヲ充分果サシムルカ爲メニハ根拠地
 ヲ遠ク阻ムモ有効ナル活動ヲ爲シ得ル艦隊ヲ發達セシムル問題ニシ
 テ新造船工業ノ技術及造船ノ迅速大規模ノ造船能力ヲ現代戦術
 太平洋進攻作戦ニ適行ハ不可能ナルカ我方工業資源ハ斯ル現代戦術
 並ニ地理的條件ニ適行ハ不可能ナルカ我方工業資源ハ斯ル現代戦術
 モノナリ更ニ亦我軍力眞珠灣ヲ距ル三五千五百哩ノサイパンニ足ル
 ヲ敢行シ得タルハ海軍ノ新建設部隊及艦隊補給列車及補助艦隊ノ

(ニ) 太平洋戦争の経過
 (イ) 太平洋戦争の経過
 最近ニ於ケル太平洋諸島ニ對スル連戦攻撃ヲ取上ケ紐育「サ
 ンヒューミッツ」アリ「マリア」諸島攻撃「マツクアイサー」島下空軍部
 隊ノ「マイシヤル」「カコロ」諸島爆撃、日本船舶ノ大喪
 失、一「ニューギニア」ニ於ケル戦況等ノ報道ハ日本側攻撃ノ
 優勢ヲ如實ニ物語ルモノニシテ日本人ノ大多數ハ日本側攻撃ノ
 カナルヘシト一大冒險ト稱シ得タルヘク日本ノ敗北ハ豫期以上速
 十三日華府「スタール」亦戰局ノ近況ヲ略述シタル後「日本ハ
 無條件降伏乃至國家的自殺ノ一ヲ選ハサルヘカ」ラサルニ至ルヘ
 シト大統領ノ所言ハ誇大ノ言ニアラス「トシ」ボストン「ヘ
 ヘラルド」ハ「ビアク」島上陸作戰成功ニ關シ「米軍力日
 本側外廓防禦線ヲ痛撃シツツアル間ニ日本軍ハ比島近接諸要
 地ノ防備強化ニ努メ居ルモノノ如ク比島攻撃ノ爲ニハ此等重
 要地區ヲ迂迴前進スルヲ得ス日本ハ明カニ内線防禦ヲ堅固ナ
 ラシメツツアリ從來我軍ノ進撃ハ快速且殆ニ無抵抗ノ中ニ
 行ハレ來レルモ馬尼刺、東京ノ進撃ハ道程短縮ニ伴ヒ我方ノ前進
 ハ緩除、困難ト成ルヲ豫想セサルヘカ「ラス」ト論シタリ「二
 十五日紐育「タス」前極東艦隊司令長官ノ週間戦局論
 「ヤーネル」ハ六月二十二日週間戦局論ニ於テ彼占領抑壓民

71

「日本ハタイムス」(七月五日)「五日米官用」
島ノ中價値アリト認メラルモノ總テヲ奪取シ太平洋上諸
島ノ點々タルカ若シ地圖ニシテ生アラハ米國ノ二大鐵腕カ徐々
ニ動キタルメタルヲ看取シタルヘシ右ノ中北方ノ一ビアク
「サイバン」ニ達シ他方「マタ」ノ南ノ腕ヲシテ數百
哩伸張セシメタル次第二島ヘノ跳躍ハ南ノ腕ヲシテ數百
島乃至臺灣或ハ其ノ兩者ヲ羽交締メント差延ヘラレツザア
府「インクアイラー」(七月六日)「六日米官用電」
「フオレスタル」海軍長官ハ米軍ノ規模宏大ナル太平洋
作戦ノ最主目的ハ日本軍ヲ起チテ規模宏大ナル太平洋
儀ナカラシムルニアル旨明カニセルカ日本カ其ノ艦隊秘匿
方針ヲ固持スルニセヨ或ハ壓倒的優勢ヲ保スル米海空軍
ニ對シ絶望的反撃ヲ敢テスルニセヨ亞細亞ノ一角ニ蟠踞ス
ル樞軸國日本ハ最早何等カノ決意ノ表明ヲ遷延シ得サルニ
立至レリ而テ米軍ノ急速ナル西進攻撃ハ比島ヲ再ヒ「マ
クア」サ「」軍ノ手中ニ收メ日本本土諸都市ニ殲滅的打撃
ヲ加フル爲今後モ續行セラルヘシ」

70

(二)
大量使用ノ賜物ニシテ之亦我軍ノ新型式戰艦ノ推進ヲ示スモ
「ナリ」
主米紙論調
其他主米紙最近ノ論評ヲ舉クレハ左ノ如シ
「華府一ポスト」(六月二十八日)「六月二十八日米官用電」
「世上行ハル戰艦論」人氣強消長甚シキモノナキ處其ノ著
例ハ内線作戰ノ有利性ニ付テハ敵ハ其ノ意圖スル外周防禦
出テ居ルハ事實ニシテ理論的ニハ敵ハ其ノ意圖スル外周防禦
地結ニ對シ我方ハ其ノ外周ヲ遠ク迂回セサルヘカサルヲ以テ其
ニ對シ我方ハ其ノ外周ヲ遠ク迂回セサルヘカサルヲ以テ其
ノ兵力集結ニ於テ敵ニ一掃ヲ施スルモノト謂ハルモ事實ハ
伊太利「」ノ「」マンデ「」作戦ノ例ニ見ルカ如ク右ノ通り
ナラズ右ノ内線作戰ニ於テ我方空軍ノ優勢ハ獨ノ短距離輸送路ヲ
破壞、其ノ内線作戰ノ利ヲ無ニシセシメタルカ、之ヲ負擔化
セシメ得ルモノナリ即チ換言セハ敵ハ包圍ノ中ニアルモノニ
シテ其ノ包圍環境ハ刻々壓縮シ得ラルヘク既ニ獨ハ望息ニ頻
シ日本亦呼吸困難ニ面シツツアリ内線作戰ハ即チ集中攻撃ノ
絶好ノ目標ヲ供スルモノニシテ所詮迂路ヲ往クコト却テ目的
達成ノ捷徑ナルヲ立證スルモノナリ」